「階段のある学校」に

今朝、十分弱の時間をもらいました。二年の級長会メンバーに話したいことがあったからです。いきなりの校長登場でしたが、級長会の六名の生徒たちは。真剣なまなざしでしっかり耳を傾けてくれました。

「私がこれから話すことは、忘れてくれてもいいからね。」

私はこのように切り出しました。級長たちは意外なことを言われ、びっくりしたようでした。

「ただし、これから書く図だけは絶対忘れないでほしい。」

こう言って、私はAの図を書きました。

「この図のようではダメです。これだと『縦のつながり』はできません。できたように見えるだけで、本当の『縦のつながり』ではありません。すぐに元にもどります。」

私はこのように言い放って、Bの図を書きました。

「違いがわかりますか。三年生がいちばん上、その下に二年生、そして一年生と続きます。こうならないと『縦のつながり』はできません。つまり、生徒会執行部、各委員長たちだけが頑張るのではなく、三年全体が二年生や一年生に手本を示し、引っ張っていかなければならないのです。君たち級長には、そういう学年を作る役目があります。そして、執行部や委員長が最も頼りにするのが、自分の学年（三年）であるべきです。」

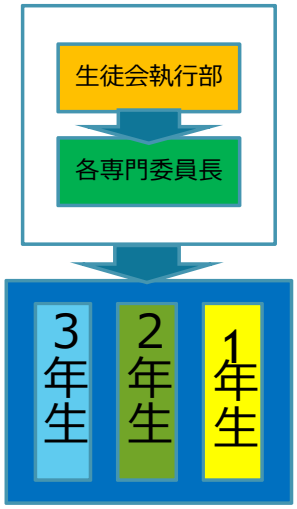
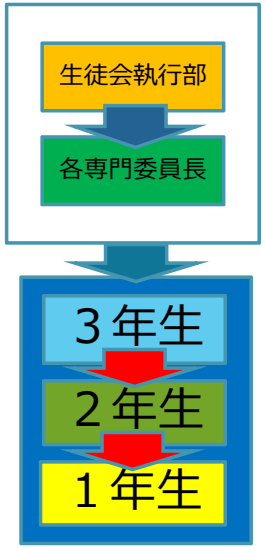
図Aと図Bは似ていますが、全く違います。図Aのように、三学年が並列で並んでいたら、高まりは生まれません。いや、高まりだけではありません。あこがれや尊敬、勢いや刺激、伝統や文化も生まれないでしょう。「先輩」という言葉も死語になります。先に生まれたということに重みはなくなり、やがて「縦のつながり」は、口にも話題にも出なくなるでしょう。

図Bのようでなければなりません。三年生が何をやっても トップにいること、それが最も大切です。その後に二年生、一年生と続くこと。例えるなら、一年生二年生三年生がそれぞれ一段目二段目三段目を構成する「階段」のような学校であるべきです。「階段のある学校」にすることが「縦のつながり」がある学校を作ることになります。

「先輩」と呼ばれる以上、それにふさわしい姿を先輩全員が後輩に見せ、一段上がることの意味を示す必要があります。四月からは再び三つの学年がそろいます。今から一段ずつ上に上がる意識をしっかり持ってくださいね。

（三月二十五日　記）

A(×)



B(○)